

一緒に始めませんか、あなたの挑戦も応援します！ ~共に創る これからのふくろい~

発行日：令和4年8月4日  
発行者：袋井市企画政策課

## 「創生会議」ふくろい部会

コロナ禍やデジタル化の進展など社会環境の変化に対応した  
施策の方向性と次の一手は…



創生会議ふくろい部会

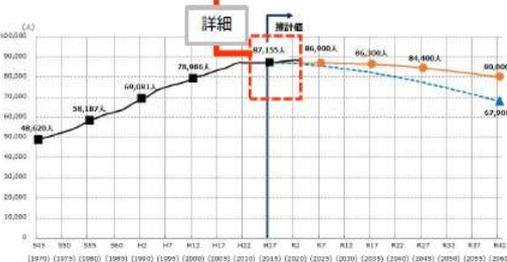
次代を見据え「選ばれるまち」になるために

2022.7.21 @袋井市教育会館「大会議室」

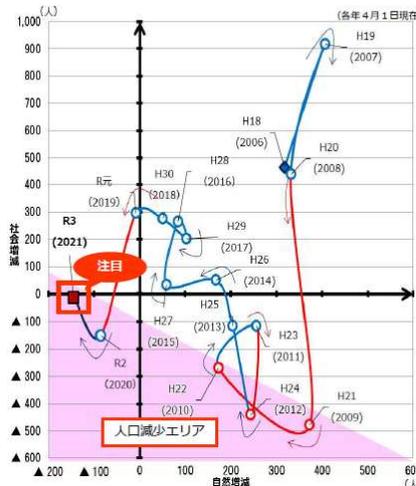
(地方創生の進捗状況)

本市人口は87,983人（R4.4.1現在）となり、コロナ禍での婚姻・出産控えなどにより出生数は、年間600人台（前年比▲39人減）まで減少した。外国人の人口は、ほぼ横ばいで推移したが、日本人の転出超過（R3▲150人→R4▲14人）は回復傾向にあるものの、**2年連続で自然・社会増減ともに減少する人口減少局面が続いている。**

人口ビジョンで設定した目標人口に対しては、  
目標推計人口を上回る水準を維持している。



自然増減・社会増減ともにマイナス（前年比▲145人・▲14人）となり人口減少エリアに留まる



他方、新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル化の進展により、自然豊かなゆとりのある生活環境に魅力を感じる人や**テレワークにより転職せずに地方で働ける人が増加**するなど、社会の価値観やライフスタイルが変化したことで**地方暮らしへの関心が高まっていることに対し、迅速かつ適切に対応することが必要。**

各取組の指標を踏まえ、  
令和3年度の取組の総括は  
「もうひと踏ん張り」と評価

[詳細は、裏面参照]

### 挑戦1 「ふくろい人」人づくりへの挑戦

- 学習ソフト「navima」を実証的に導入し、個に応じた学びと協働的な学びの更なる推進を図るとともに、1人1台配備したタブレットの家庭への持ち帰りを実施し、授業と家庭学習の連動を進めるなど、ICT機器を活用した教育の推進に努めた。
- 産業や社会のあり方が変化していく中でも活躍できる人材の地域ぐるみでの育成などを目指し、市内高校・特別支援学校と地方創生に向けた連携協定を締結した。
- 新たなビジネスや市民活動などに取り組む意欲や能力を有する人たちの支援として、創業を目指す人が気軽に挑戦できる場「チャレンジショップ」を開設した。

評価



もうひと踏ん張り

(2.7点)

### 挑戦2 「しっかり稼ぐ」しごとづくりへの挑戦

- ふくろい産業イノベーションセンターを設置し、企業の技術課題の解決支援などを行ったほか、地元企業の魅力発信や人材確保の支援などを目的に就職情報サイトを開設した。
- 海外輸出に関心がある市内の茶生産者の有志らと、アメリカなど日本茶の需要が期待される市場へサンプル品を送付しアンケート調査を行うなど、生産者などが海外輸出に向けた検討を行うための簡易マーケティング調査を実施した。
- 市のガイドブックや特産品をモチーフにした創作絵本を作成し、シティプロモーションの充実・強化を図った。

評価



もうひと踏ん張り

(2.8点)

### 挑戦3 「支え合い」誰もが活躍するまちづくりへの挑戦

- 人生100年時代の地域経営のあり方に関する調査研究で、地域・事業者や庁内関係課が参加する「官民共創ワーキンググループ」を設置し、共創の考え方などを学び合い、試行実証の企画を行った。
- 地域が主体となり、市内タクシー事業者と市が協力し「地域タクシー」の試験運行を実施した。
- 情報紙「共生のトピラ」の創刊など共生社会の推進に向けた取組を充実させたほか、東京2020オリンピックのホストタウンとして、異文化理解を深める取組を行った。

評価



もうひと踏ん張り

(2.6点)

よくできました (5~4.5点)

いい調子です (4.4~3.5点)

もうひと踏ん張り (3.4~2.5点)

もっとなげぼう (2.4~0点)

### 主な意見（コロナ禍が抱える地域社会の実情とや未来志向でこれから取り組むべきこと）

コロナ禍により暮らし方や価値観も大きく変わってきた。例えば、キャッシュレス。コロナ前は3割程度だったキャッシュレス決済の利用者が二人に一人まで増加。経営面では、手数料の負担は増えるが、現金のハンドリングコストは削減を実現した。

国や県、市がコロナ禍の緊急経済対策を色々と講じていただいているが、事業者側の感覚としては、①色々あり過ぎ、必要な情報がしっかり届いていないこと、②執行期間が年度末までと検討から実施まで十分な期間が確保できていないことが課題に感じる。

コロナや物価高騰など課題が山積している中であっても「しっかり稼ぐ」ことを考え、新たな挑戦をしている若い経営者も多い。

コロナが終息することはないことを前提に、仕事や暮らしを変えていくことが必要。

デジタル田園都市国家構想に基づく取組は、推進すべき。公共交通にAIを導入し、バス停などに関係なく、スマホで乗降できる仕組みづくりなどに着手していくべき。

人口が減少していくことを受け入れた下山経営を始めないといけないとき。他方、安さや便利さに飛びついて失ったものも多いと感じる。我々は、本当の質を感じる感性がいつの間にか、乏しくなっているのでないかと懸念している。

市には、これまで以上に「繋ぐこと」を強く意識した活動が求められている。インキュベーション施設などもその一つ。異なる分野の人たちがカジュアルに繋がり、刺激を合う機会と場づくりに取り組んでいくべき。

クラウドサービスなどが普及した一方、デジタル化が抱えるリスク面も今一度点検することが大事。

長寿命のインフラ整備は今のうちに整備しておくことが重要で、少子化対策などの課題解決については、パンデミックの後だからこそ、袋井だからできることを大胆に打って出ていくことが必要。



(令和4年7月末現在/順不同・敬称略)



### 輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生会議【ふくろい部会】メンバー

株式会社杏林堂薬局	取締役副会長	青田 英 行	静岡県立農林環境専門職大学	学 長	鈴木 滋 彦
Realabo (料理講師、ITサポート)	代 表	足立 美 和	袋井商工会議所	副 会 頭	豊田 浩 子
学校法人山名学園 山名幼稚園	理 事 長	諸井 理 恵	静岡理工科大学	総務部長	久留島 康 仁
安間製茶	代 表	安間 孝 介	アスリートクラブ	主 宰	岡田 千 詠 子
袋井市観光協会	理 事	大場 和 明	静岡大学情報学部	教 授	遊 橋 裕 泰
ヒンディー語講師	講 師	下田 孝 子	日本貿易振興機構 (JETRO浜松)	所 長	永 盛 明 洋